

現代の ことば

ジョン・グリーン

筆者は日本の神社と祭りが大変好きなイギリス人。イギリス的な観点で見ると、日本の「祭り文化」は羨ましいほど豊かである。その文化の核心はもちろん京都だ。京都のお祭りは10月が特に面白い。北野天満宮の瑞饋祭、御香宮神社の伏見祭、北白川天神宮の高盛御供、栗田神社の神幸祭、野宮神社の齋宮行列等等あるが、ピークは22日だろう。

昼は京都三大祭りの時代祭、夜は京都三大奇祭の鞍馬の火祭。どちらも全国的に有名。これらのお祭りは神社という聖地を拠点に盛り上がり、まち全体を巻き込んでいく。神職は神事を行うが、盛り上げる主体は住民である。

イギリスの祭りは大いに異なる。その数はまずとても少ない。なおカトリックの国々と違って聖地としての教会があるが、ピークは22日だろう。

神社と祭りの10月



中心になるお祭りはイギリスにない。著名なお祭りといえ、奇祭と言つべきチース転がし祭とノッティングヒル・カーニバルだろうが、全く俗世界のものばかり。ちなみに、前者はチース生産地のグロスターで行われるが、急斜面の丘の上から転がしたチースを追っかけ競い合うのが見どころ。後者は、ロンドンで開催されるもので、カリブ諸島か

らイギリスに移住した人たちが戦後立ち上げた。見どころはパレードと華やかな山車と屋台。5月のチース転がしは観客数わずか3千人だが、8月のノッティングヒルには全国から100万人の群集が集まる。

さて、平安神宮を軸とする時代祭と由岐神社が中心になる鞍馬の火祭だが、その性格が全く対照的であることは面白い。「秩序」と「無秩序」の違いかも知れない。火祭は、沿道の篝火と若衆が練り歩いて担ぐ松明数本で夜空が赤く染まる。「サイレイヤ、サイリヨウ」の絶叫で横に上下に揺れ動く大松明は100キ

のももある。若衆のエネルギーとパワーに無秩序の可能性が永遠にある。若衆の向うはちまき、入れ墨に見まがえる船頭籠手、肌が露わな締め込み姿。すべてが逞しき、勇ましさを訴える。クライマックスは、由岐神社から出立する神輿の前の担い棒に裸も同然の若い男たちがぶら下がって、大股を逆さ大の字形に広げるチョップペンの儀。

火祭の起源は不明だが、それと対照をなす同日昼の時代祭は、起源が分かる。それは1895年、平安遷都千百年記念祭の年。時代祭は遷都の記念イベントとして生まれた。平安神宮も、遷都を行った桓武天皇の御霊を祭るためこの年に創建された。時代祭は歴史ページェントという、当時として全く新しいタイプの祭り。京都御所の建礼門前から平安神宮にゆっくり進んでいく優雅で整然とした時代行列は、平安時代から幕末まで皇室に忠実に仕えた者たちで構成される。桓武と京都在住最後の孝明天皇の御霊も豪華な鳳輦に乗って参列する。

時代祭の「秩序」は、皇室が意味付けた秩序に他ならない。いずれにせよ、10月の豊かな祭り文化を存分に楽しみたい。

(国際日本文化研究センター 教授・日本史)